

令和元年度 特色ある教育・経営の取り組みを行う私立学校の事例集

就職も大学編入も『経短』 コース×ユニットで支える多様な進路選択

学校法人明德学園
京都経済短期大学

京都経済短期大学

京都経済短期大学は、京都市の西京区、阪急桂駅からバスで約8分の位置にあります。

京都経済短期大学を設置する学校法人明德学園は、短期大学のほかに京都明徳高等学校、京都成章高等学校を設置しています。短期大学は平成5年に経営情報学科を設置する単科短期大学として開学しました。「高度情報化社会に対応できる人材として、経営学の基礎知識をベースに情報処理能力と経営能力をトータルに身につけた人材と、幅のある人間的教養を身につけた個性豊かな21世紀の産業人の育成」を建学の精神とし、経営学の基礎知識と情報処理能力の修得を基礎として、より高度な専門知識を獲得できる実践的なカリキュラムを構成しています。

内部進学者の低下等から24年度から入学者が落ち込み入学定員充足率は100%未満になりましたが、教育内容や募集戦略の見直し等により、27年度より入学定員充足率は100%を超え、30年度には入学定員を150名から200名に増やすなど、日本唯一の経済短期大学として人気を集める、近

年勢いのある短期大学です。



京都経済短期大学の学舎

【好調な就職と大学編入】

京都経済短期大学が人気を集める理由の1つに、就職と大学編入状況が非常に良好であり、高い実績を残していることが挙げられます。平成31年3月卒業生の就職内定率は97・9%、大学編入合格率は100%とどちらも高い水準となっています。

4年制大学と比べ就職活動準備の時間が短い短期大学ですが、当短期大学ではSPI対策や一般教養対策、マナー講座等就職活動に直結する講座を正

課科目に組み入れ、大学のカリキュラムそのものをキャリア形成の場としています。「キャリアプランニング」の講義では、自己分析・面接対策等の実践的な就職活動対策から、就職内定者との懇談会や卒業生による講演等も行い、就職後のキャリアまで考えることが出来る内容となっています。

講義以外のサポート体制も整っており、入学直後のGWに学生全員との個人面談、2月には就職希望者全員とのマッチング面談を職員が行い、学生の意識・志望を確認しています。教員も自身のゼミナールに所属する学生の就職活動状況を把握して個別指導を行うなど、教職員一体となって就職支援を行っています。また、職員は学生だけでなく企業担当者とも求める学生像について情報交換を行い、企業と学生のミスマッチを防いでいます。実際にミスマッチが原因の退職は少なく、ビジネススキルも身に着けた学生は地元企業からの信頼も厚いものとなっています。

大学編入についても、関西だけでなく関東の4年制大学への多数の編入指定校推薦枠を有しており、「大学編入なら経短」と高い評価を得ています。EC編入学院と提携した対策講義がカリキュラムに組み込まれているほか、休暇期間中にも小論文指導や模擬面接を組み込んだ勉強会を行っています。

経済・経営系の学部への編入志望者が多いため、経済・経営系の学部において

て1・2年生で学ぶ科目は在学中に網羅できるように考えられています。1年生前期には必修科目である基礎ゼミナールが、1年生後期からは専門ゼミナールが開講され、自身の研究テーマを設定して卒業研究・卒業論文に取り組みます。研究成果は全学生が参加するゼミナール研究発表会で報告され、活発な意見交換が交わされます。4年制大学では1・2年生にゼミを経験する学生が少ない中、この経験が編入後の大学のゼミでの活躍にもつながっています。



ゼミナールの様子

【学内ダブルスクール】

学生の学びと進路を支える大きな柱となるのが、5つのコースと2つのユニットです。「経済システムコース」「経営マーケティングコース」「会計ファイナンスコース」「国際ビジネスコース」

「総合情報コース」の5つのコースがあります。いずれかのコースに所属するというのではなく、コースごとにモデルカリキュラムが組まれており、複数コースを同時に選択することも可能になっています。

ユニットは原則無料で受けることが出来る特別講義であり、「資格就職ユニット」と「大学編入ユニット」に分かれています。さらに、「資格就職ユニット」は公務員や簿記など職業や資格ごとに14のフィールドがあり、ユニット内の資格対策講義の数は40ほどに上ります。講義は、大原学園やTACなどの専門学校講師が担当し、通常ダブルスクールとして身に着ける知識を学内で学ぶことが可能となっています。「大学編入ユニット」は、指定校推薦受験志望と国公立大学・難関私立大学志望に分かれ、英語の講義や小論文など基礎から応用まで編入学試験に必要な指導を行っています。

コース、ユニットともに複数選択・再選択が可能であるため、資格の複数取得だけでなく大学編入から就職、就職から大学編入への進路変更にも柔軟に対応し、中退者が非常に少ないことにもつながっています。

社会のニーズに即応した更なる教育改革として27年度にコース・ユニット制を導入したことで、コースは学びの広がり、ユニットは進路の広がり、それぞれの位置づけがより明確になり、

受験生にも分かりやすくなっています。

【学生と教職員の関係性】

学生と教職員の関係性も学内の活気溢れる雰囲気大きく関係しています。学内には加藤学長をはじめとする教職員と学生が気軽にコミュニケーションをとることが出来る風土があります。教員だけでなく職員も全学生の顔と名前、出身地等を覚え、進路状況も職員間で共有し、上手いかない状況が続く学生には、多くの教職員でサポートができるような体制になっています。

このような体制が出来上がった理由には、学長のリーダーシップの他に、教員の年齢層が若く、学生との距離感が変化することが挙げられます。講義にグループワークや学外での学びなど新しいスタイルの教育方法を取り入れられるようになり、学生が成功・失敗経験をより多く積むことができるようになったことも学修の大きな成果となっています。

【学生募集・広報活動】

社会のニーズに応えた実学を学べる充実したカリキュラムの確立を図る一方で、受験生である高校生等に短期大学を知ってもらう観点から広報活動にも積極的に取り組んでいます。

広報物のデザインを一新して、学校案内、パンフレットの表紙やノベルティは黒を基調としたユニバーサルデザイン

インかつスタイリッシュなデザインを取り入れ、日常的に使いやすく、受験生の目に留まるよう工夫した作りに変更しています。

また、西日本で経済・経営を2年間で学ぶことが出来る唯一の学校であることから、毎年幅広い出身地の学生が入学しており、オープンキャンパスでも特色が見られます。「経短のファンを増やすこと」という目標を教職員と学生スタッフが共有し、高校生に入学後の自分が学んでいる姿をイメージしてもらうことを重視したプログラムとして、ゼミナールの内容を体験できる「体験ゼミ」等を実施しています。また、地方出身の高校生が参加している場合、同じ都道府県出身の学生と交流できるような職員が配慮しています。このような配慮ができるのも職員と学生の日頃のコミュニケーションが積極的に行われ



「ケイタン de タイカン」をテーマとした令和元年度のオープンキャンパス

ていることによるもので、参加者にとって「面倒見の良い大学」を体感する機会となっています。

近年、商業高校との連携強化を図っており、足を運ぶことができる場所であれば直接学校を訪問し、進路指導担当の先生との情報交換を行っています。実際に生徒が入学した場合は、短期大学での学生生活の様子を高校の先生にも報告しています。学生の出身高校への丁寧なフィードバックと就職・編入の実績もあり、年度をまたいで同じ高校出身の生徒が入学するケースも多く見られます。

このような取り組みを実施してきた結果、以前の学生募集活動の中心は短期大学や専門学校への進学希望者でしたが、現在は4年制大学志望者にも対象が広がっています。

【取材を終えて】

大学編入後の卒業生が就職相談に訪れることもあるとのことをお話を伺い、学生と教職員の方の距離の近さと学生からの信頼が感じられました。

就職・大学編入合格率の実績は、多様な進路に沿って選択できるカリキュラムと、教職員が一体となって全学生に向き合い就職・編入支援を行う姿勢に支えられたものであると実感した取材となりました。

（取材）私学経営情報センター